

hgu_LAB. MAGAZINE

009

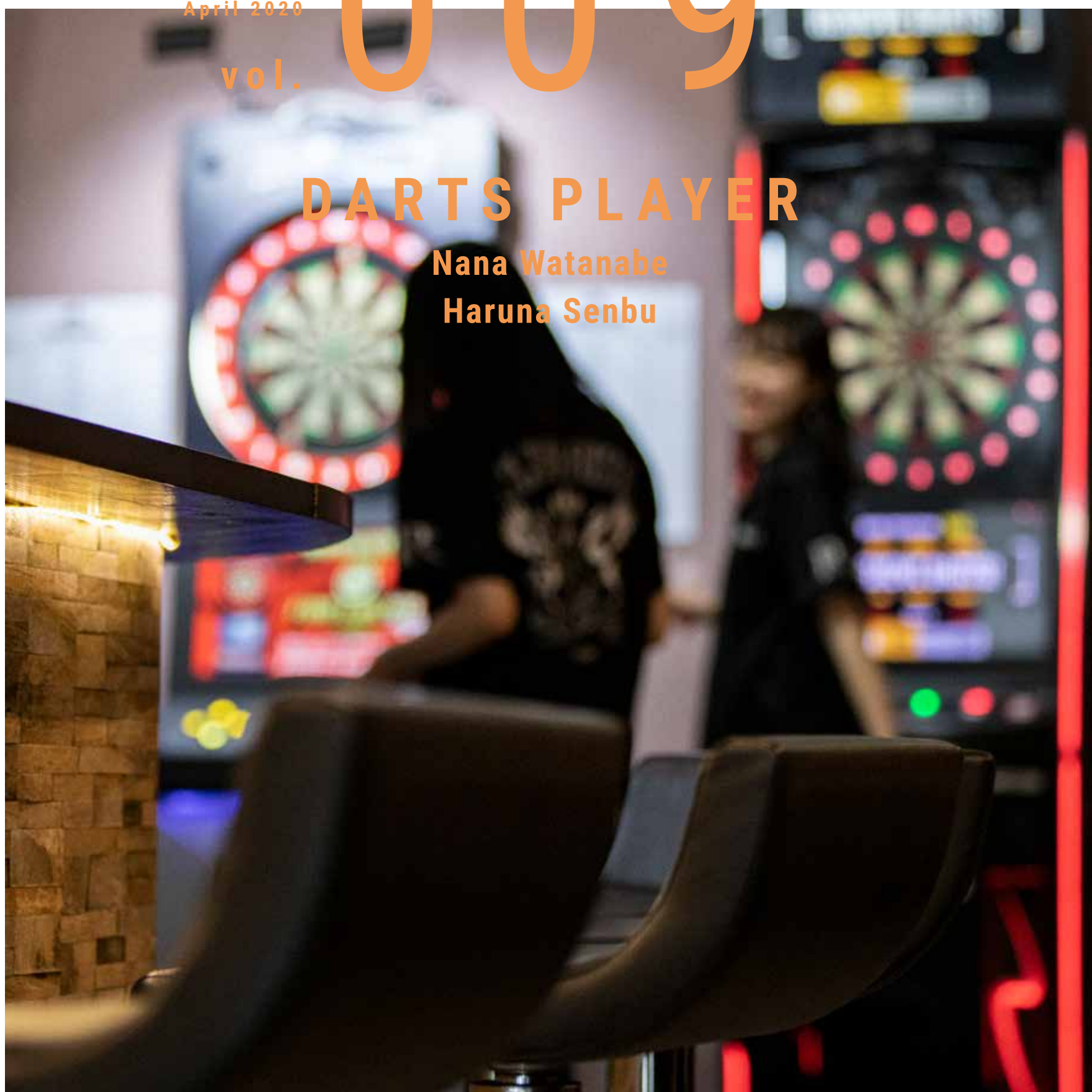


April 2020

vol.

DARTS PLAYER

Nana Watanabe
Haruna Senbu



Pick the day.
Enjoy it to the hilt.
The day as it comes.
People as they come...

Audrey Hepburn

ダーツも勉強も
就活も食べ歩きも、
とにかく毎日を楽しみたい。

ダーツボードの外周に規則性がなく並ぶ、1 から20までの数字。
ゲームを楽しくする絶妙な配列だと、渡辺さん・千歩さんペアは口を揃えます。
全国ベスト8にも輝いたことがある2人の好きな言葉は、
オードリー・ヘプバーンの「どんな日であれ、その日をとことん楽しむこと」。
目の前にある現実世界（ボードの配列）を素直に受け入れて、
いまベストだと思うところ（数字）に、どんどん飛び（投げ）込む。
そうすればおのずと、毎日はどんどん楽しくなる。
2人の話を聞いていると、そんな想いがよく伝わってきます。

Nana Watanabe

渡辺 奈菜

北海学園大学 経営学部 1 部
経営情報学科 4 年（取材時 3 年）
北海道札幌北高等学校出身

札幌市生まれ。本学のダーツサークル「CLUB RIZE」に所属。2018 年の「ソフトダーツ U-22」大会では、千歩さんとペアを組んだダブルスで北海道予選を突破し、全国ベスト8に輝いた。経営の学びでは、特にマーケティングや企業戦略などの分野への関心が高い。アルバイトはホテル内レストランのホールスタッフ。

Haruna Senbu

千歩 春奈

北海学園大学 経営学部 1 部
経営情報学科 4 年（取材時 3 年）
北海道札幌啓成高等学校出身

札幌市生まれ。小学校ではダンスと水泳、中学校ではバスケットボール部と美術部、高校ではバドミントン部と歩んできて、大学ではダーツサークル「CLUB RIZE」に所属。2018 年の「ソフトダーツ U-22」大会では渡辺さんとのダブルスで全国ベスト8に。NMB48 と乃木坂 46 のファン。アルバイトは区民プールの監視員など。

Nana Watanabe

投げ方はみんなバラバラ

—— ダーツを始めたのは大学から？
そうです。中学校と高校では生徒会だったので、大学では趣味的なサークルに入ってみたくて。とはいえ、球技系だと経験者が多いじゃないですか。そもそも私は運動があまり好きじゃないというのもあるんですけど（笑）。それで手軽に始められるものを探していたら、ダーツサークルがあることを知ったんです。さらに、新入生歓迎会で優勝したら、ディズニールンドのチケットがもらえるというので、「わーい！」みたいな感じで入りました（笑）

—— 結局、チケットはもらえたんですか？
いえ、負けてしまいました（笑）。でも先輩がすごくいい人たちばかりだったので、新入生歓迎会だけで辞めずに、これまでずっと続いていますね。

—— 現在の人数は？
全学年を合わせて90人ほどで、男女比は7：3ぐらいでしょうか。もっと女の子に入ってほしいです。ディズニーに行ける可能性もありますから（笑）

—— ダーツ初心者はどんな練習を？
とにかく投げるという感じです。こうやって投げるべきという決まったフォームがないので、自分が投げやすいかたちを探していくしかないんですよね。立ち方も、ダーツに添える指の本数も、体の動かし方も、本当にみんなバラバラなんですよ。私の場合は、右足を前に出して、ダーツマシンに対して斜めに立ち、指は3本、ひじを動かさないように、という感じです。

—— トッププロもみんな投げ方が違う？
そうですね。だから、プロの投げ方を真似して当てるというゲームを楽しんでいる人もいます（笑）

—— 目標にしている選手はいるんですか？
目標というか、めちゃくちゃ強くてすごいと思うのは鈴木未来（すずき・みくる）選手ですね。日本の女子ではずっとトップで、ダーツ界の吉田沙保里（レスリング）という感じの存在です。

—— モノマネの対象になる選手は国内？ 海外？

両方ですね。日本はソフトダーツが多いんですよ。チップがプラスチック製で、ダーツマシンに投げるタイプです。海外ではチップが金属製で、昔ながらのボードに投げるハードダーツが主流です。

4つのパーツで1本のダーツ

—— チップというのはダーツの先端のことですね？
そうです。1本のソフトダーツは先端からチップ、バレル、シャフト、フライトというパーツで構成されていて、それぞれ自分に合うものを組み合わせることができるんです。

—— なるほど。各部の役割を教えてください。
チップはダーツボードに刺さる部分で、折れ曲りやすいんですよ。消耗品ですね。投げるときに持つバレルはいちばん大事な部分。重さや形状、カット（溝）の入り方などによって投げるときの感覚がまったく違うんです。シャフトは全体の重さの調整役で、フライトは飛び方を安定させる羽根の役割ですね。

—— ちなみにどれくらいの価格なんですか？
ダーツは1回に3本ずつ投げるので、消耗品のチップ以外は各パーツが3本セットで売られています。シャフトやフライトは数百円で買えるんですが、バレルがけっこう高いんですよ。かなりの価格差がありますけど、長く続けるつもりなら5000円以上のものを買ったほうがいいと思います。私は6000円ぐらい、春奈（千歩さん）は1万円ぐらいのバレルを使っていますね。2万円近くするバレルもありますよ。

—— どれにするか即決できない価格ですね。
そうなんですよ。私はサークルに入ってすぐ、先輩にダーツショップへ連れていってもらったんです。そこで店員さんと先輩に選んでもらった初心者でも投げやすいものをいくつか試投して決めました。バレルは今もそのとき買ったものから変えていません。

ダーツってどんなイメージ？

—— 全国ベスト8まで行きましたね。今後の目標は？
もちろん大会では常に上位を狙いたいですけど、お酒とタバコとセットみたいなダーツのイメージを変えたい

というのがあります。それだけではないんだよと。外国ではダーツボードのある家も多くて、子どもから大人までが楽しめるクリーンなイメージなんです。

—— 渡辺さんはマーケティングや企業戦略に関心があるんですよね（下の対談参照）。ダーツの普及には、そういった学びも活かせるのでは？
たしかにそうですね。最近ニュースで見たんですけど、ダーツが教育や福祉の現場で取り入れられているそうです。子どもたちの集中力を養ったり、マナーがそれなりに厳格なスポーツなので、マナーとは何かを知るという面でも意味があるようです。それと、対戦中は頭の中でものすごく計算をするので、認知症の予防にも効果があるのではないかという話で。



—— なるほど。そういう要素をダーツ業界全体でブッシュしていけば、国内でも競技人口が増えていくかもしれませんね。渡辺さん自身は、ダーツを通じて成長できたと思うことはありますか？
コミュニケーション能力は上がった気がします。大会で初対面の人と対戦するときも、ダーツの話から入って、全然違う話に発展していくことが多いですね。あと、一人で練習しているときに、隣で投げている人から対戦に誘われることがあって、それはなるべく断らないようにしています。対戦していたら、いつの間にか就活の相談に乗ってもらっていたりして（笑）。ダーツって、意外とコミュニケーションを円滑にするツールでもあるんですよ。デートのときに映画を観て、それをきっかけに会話をするような感じに近いのかもしれないですね（笑）

論理的にクリアで キレ味のある提案を

—— 今野先生のゼミの概要を教えてください。

今野 テーマは経営戦略で、2年生前期はビジネスモデルの考え方について学びます。2年生後期と3年生前期にはグループごとに好きな業界や企業を選び、分析を通じて課題を見つけ、その解決策を考えるという感じです。渡辺さんにとって特に印象的だった内容は？
渡辺 私たちのグループはフィンテック（ファイナンス+テクノロジー）関連について調べたのですが、金融業界の世界的な新しい流れを知るほどに、日本の地銀にも頑張ってるほしいと思いました。それと、ゼミの課外活動というかたちで取り組んだビールメーカーのプロジェクトも、とても印象に残っています。

今野 大手ビールメーカーにプレゼンをしたんだよね。具体的には3つぐらい提案があったと思うけど。
渡辺 はい、ビール離れをしている若者に対して、いかにアプローチするかということで、パッケージ戦略、SNSの活用、イベント企画の提案をしました。

—— 実際の企業に提案をするというのは、とてもやりがいがありますね。どのあたりが大変でしたか？

渡辺 分析した内容と、そこから導き出す提案がぶれないように、一貫性を保つのに苦労しました。
今野 見つかった課題に対して、論理的に解決策を提案することが大切だね。結果として、担当の方からは、よくぞここまでやってくれたという評価をいただいて、社内資料として使ってくれたのがよかった。
渡辺 それは本当にうれしかったです。ちなみにゼミ全般を通して、先生のビール愛が伝わってきました。このプロジェクトとは関係ないところでも、ビールのたと

え話が出てくるのがとても多いので（笑）
今野 ホントに？ それは自分でも全然気づいてなかったなあ。いや、実際好きなんだけどね（笑）

Yoshifumi Konno

今野 喜文
経営学部 経営学科
教授

My Favorite Teacher







DARTS PLAYER | NANA WATANABE / HARUNA SENBU
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

Haruna Senbu

ダーツはダイエット的

—— 渡辺さんは大学からダーツを始めたということですが、千歩さんは？

私も同じです。というか、入学して奈菜（渡辺さん）と知り合った日に、ダーツサークルの新入生歓迎会の話をされて「行こう！」みたいな（笑）。サークルには入りたかったんですが、まさかダーツを選ぶとは思ってませんでした。というのも、ダーツってあまりいいイメージがなかったんですよ。お酒とセットの感じがあるじゃないですか。でも私たちのサークルは全然そんなことなく、楽しく真剣にプレーしています。

—— 千歩さんも、新歓で優勝したらもらえるというディズニーのチケットに興味？
もちろん、大好きですから（笑）

—— 普段の練習はどのように？
部室にダーツマシンが1台あるので、授業の空き時間などに練習しています。放課後はダーツマシンのあるアミューズメントスペースに行くことが多いですね。あと、自宅にもボードがあります。



—— サークルの仲間と練習をする？
そうですね。でも、大会前に集中したいときは、1人で練習します。ダーツって、最初は練習した分だけどんどんうまくなるんですけど、その先に停滞期があるんですよ。ダイエットみたいな感じです（笑）

—— そこで諦めず、地道に続けることが大切？
だと思います。私たちが全国ベスト8になった大会の前は、本当に毎日、絶対に投げていて、そうするとレー

ティング(ダーツの上手さを示す数字)が確実に上がっていくんですよ。

—— 練習は、なにかテーマを決めて？
苦手なナンバーがあるんですよね。時期によっても変わるんですけど。そのナンバーをずっと狙うという練習をすることもあります。ボードの真ん中の部分を「ブル」というんですが、たとえば「19」が苦手だったら、19がブルだと自分に思い込ませて投げるとか、人それぞれのやり方があると思います。

ゼミとディズニーでベスト8

—— ノリで入った部分もあるのに、しっかり練習をして、全国ベスト8になるなんて、やりますね。
それはゼミのおかげかもしれません（笑）。私は心理学系のゼミに所属していて、2年前期には「目標を達成できる人とできない人の違いはなにか」みたいな、モチベーションに関わるテーマに取り組みました。最初に自分で目標を立てるんですが、私は「北海道予選で優勝して全国大会に行く」という目標にしました。

—— 学びとサークルがつながりましたね（笑）。ちなみに千歩さん以外のみなさんはどのような目標を？
どんなことでもいいんです。ダイエットを成功させるとか、自分の部屋をきれいなまま維持するとか。

—— なるほど。目標を設定して、その後は？
どうしたら頑張ることができるのか、なんで諦めてしまうのか、そういうことを議論していく感じですね。途中で細かい目標も立てます。私の場合はフォームを見直すとか、苦手ナンバーを克服するとか。中間発表の機会もあって、私はそれまでにあまり苦手ナンバーを克服できてなかったんです。それで単純にもっと投げる時間を増やそうと思って、予選までの期間は毎日、絶対、必ず、アルバイトがある日でも、30分でもいいから投げることに決めて実行しました。

—— すごい。そしてゼミの力もすごい（笑）
はい（笑）。まず目標を立てること、それができなかった場合は原因を分析すること。どちらも大切だと思います。あと、モチベーションのもとになるものは人それぞれ違うということも知りました。たとえばそれ

は、ほかの人に認められたいという承認欲求だったり。私の場合は、自己満足のために頑張れるタイプの方です。なので、目標を達成した際のご褒美を設定しました。全国大会は東京で行われるので、出場できたらディズニーもセットで行こうと（笑）

就活も学びもどんどん投げ込む

—— そして、実際に成し遂げたと（笑）。すばらしいです。いずれにせよ、続いているということは、それだけダーツに魅力を感じているからなんでしょうね。単純に上手くなるのはうれしいですし、集中力も前よりは身についた気がします。それと、大人数のサークルで代表補佐をやらせてもらい、みんなのことを考えながら運営することの大切さも学べたので、やっぱりこのサークルに入ってよかったなと思います。

—— ちなみに今、ダーツ以外で頑張っていることは？
自分に向いている将来を早めに見つけたくて、いろんな業界のインターンシップに参加しています。私はもともとデスクワークよりも、お客さんと対面することが多い職種が合う感じがしているんですが、デスクワーク中心だろうと想像していた仕事がそうではなかったり、その逆もあったりするので、実際の現場を見るのはとても大切だと思いました。それと、3年生の最後に提出するゼミ論も頑張っているところです。

—— ちなみにどんな内容ですか？
「ディズニーランドはなぜリピーターが多いのか」というのを心理面から分析する論文です（笑）

—— ここでまた出ましたね（笑）
一時的なブームで終わってしまうものが多いなか、どうすれば人気を持続させることができるのか、ということを考えてみたかったんです。約300人の学生にアンケートを取って、それをもとに分析してまとめる感じですね。これまでに行った回数、その理由、一緒に行った人、どこに魅力を感じているのかなどの質問を用意しました。でも、中間発表でデータの扱い方に間違いがあることが判明したんです（苦笑）。そこはなんとか修正できたので、あともう一歩、頑張ります。

リーダーシップってなんだろう？

—— 増地先生の専門である組織心理学とは？

増地 心理学の知見を組織で働く人に応用して、組織全体としての成果につなげていくための学問ですね。一人ひとりの適性やモチベーション、リーダーシップなど、さまざまな切り口があります。

—— 千歩さんはダーツサークルの代表補佐もされていたようですが、組織心理学の学びは役立ちましたか？

千歩 サークル全体の動きを共有して、一人ひとりの役割を明確にするというのは心がけたつもりです。
増地 情報共有や役割分担は、組織マネジメントとしてとて

も大事ですね。
千歩 そういえば先日、先生の授業でリーダーシップについて学びましたよね。5人1組になって、1枚の絵が16枚に分割されたものを3～4枚ずつ渡されて。
増地 そうだね。どんな絵柄を持っているのかを見せあうことはできず、口頭で説明しながら、最終的に1枚の絵を完成させるというグループワークでした。
千歩 私が入ったグループは、ある男子が進行役になってくれて、私は絵を描くことにしました。
増地 グループにどんなメンバーがいるかで、役割分担や、最終的な完成度も変わってきますよね。
千歩 私のグループは、いい感じに仕上がりましたよ（笑）。そして最後にリーダーシップとは、もともと備った資質なのか、経験で身につけられるのかという議論をしました。私は資質派でしたが、話し合いを通して、経験も大事だと感じるようになりました。
増地 そのような気づきは大切ですね。それに加えて、情報を聞き出すことや、絵を描くことなど、課題を進

めるすべての行動がリーダーシップでもあるんですよね。千歩さんは、常に周りを見て行動できる人なので、その気持ちを忘れずに歩んでいてください。

Ayumi Masuchi

増地 あゆみ
経営学部 経営情報学科
教授

My Favorite Teacher



My Favorite Place



夜パフェ専門店
パフェテリア パル

札幌市中央区南4西2
南4西2ビル6F
011-200-0559
18:00～26:00 (L.O.25:30)

右 秋盆栽
左 ようなしブルータイム

※2020年2月現在
(メニューは2019年11月取材時のもの)

部室からパフェ屋さん、という流れが定番。

渡辺 このパフェ屋さんには3つの空間があって、それぞれ雰囲気が違っておもしろいよね。
千歩 そうそう。でも私、ここ（B館）は初めてに入った。天井からいろんなドライフラワーがぶら下がっていて、森みたいな感じ。メルヘンだなー。
渡辺 パフェはサークルの人と食べに行くことが多いね。甘いものが好きな男の子も多かったりして。
千歩 そうだね、部室で「パフェ行こう！」って。特定のお店に行くというよりは、開拓するのが好き。
渡辺 うん。でも、ここは季節ごとにメニューが変わるから、毎回違うお店に来た感じで楽しいよね。
千歩 というわけで私は「秋盆栽」というパフェにしてみたよ。大好きなカシスが入っているし。
渡辺 私は「ようなしブルータイム」。洋梨のソルベとゴルゴンゾーラって、大人な感じ。ではさっそく…
2人 いただきまーす！

My Favorite Things



マイダーツ

渡辺さん（左）
先端からチップ、バレル、シャフト、フライトで1本のダーツに。バレルの重さや形状、カット（溝）によって投げるときの感覚がすごく変わります。フライトにもいろいろな形状や柄があって、選ぶのが楽しいですよ。もうボロボロなので、そろそろ交換したいと思っています。

千歩さん（右）
私のバレルはブクブク太っています（笑）。カットが少ないので、指に引っかからずに投げられる感じですね。フライトは、3本とも透明色。以前は色や柄が違うセットを使っていたんですけど、投げるときに柄がちらつくのが気になりだしてからは透明に落ち着きました。



ウチカフェ キャラメルラテ
LAWSON

コーヒーの苦味があまり得意ではないのですが、たまたまこれを買って飲んでみたら、「甘くておいしいー!」となりました。バイト終わりには絶対に飲みます。仕事で疲れたら甘いものが欲しくなるじゃないですか。だから週に3～5回は飲んでいることになりますね（笑）（渡辺）



トロフィー

1年生の8月に出場した「第3回北海道女子学生ソフトダーツ選手権」で、まさかの準優勝をしてしまいました。サークルに入ってから3か月目にも関わらず、なんだかとても運がよくて、まさにビギナーズラックですね。人生最初で最後のトロフィーかもしれません（笑）（渡辺）



キレイキレイ 除菌ウエットシート
ライオン

ノンアルコールタイプもありますが、しっかり除菌したい私はアルコールタイプ派。ごはんでもお菓子でも、何かを食べる前は必ず使います。みんなからも「キレイキレイちょうだい」と言われるのでどんどんなくなります（笑）。なので、いつも30枚入りを買っています。（千歩）



アルバム

この2冊は、高校時代にバドミントン部の友だちが誕生日にくれたもの、そして卒業のときに後輩からもらったもの。このほかにも私の部屋は思い出のアルバムであふれています。けっこう見返しては、「ああ、こんなことあったな」と思い出し笑いをすることも多いですね。（千歩）



ラスティンググロスリップ
CEZANNE

口紅を塗ると、唇の皮が剥がれてきちゃうんですけど、このリップだと大丈夫なんです。色もかわいしい、すごく塗りやすい。スルスルスル〜っと。運命の出会いが大学2年生の冬でしたね。それ以来、ずっとこれです。色もずっと一緒で、もう3、4本目かな。（渡辺）



経営戦略論
十川 廣國（編著）
中央経済社

私が所属しているゼミの今野喜文先生が共著者として執筆した本で、2年次の「経営戦略」という科目の教科書として使いました。ポジショニングアプローチや多角化戦略など、私が興味をもっている分野の基本的な内容がまとめてあって、とてもわかりやすいです。（渡辺）



キーホルダー
劇場版SPEC

戸田恵梨香さんのファンで、彼女が主演をしたドラマ「SPEC」も大好きです。スリルのある感じのドラマや映画が好きなんです。このキーホルダーは、劇場版SPECを観に行ったときに買ったグッズ。劇中に餃子のお店がよく出てくるんです。かわいいですよね、餃子。（千歩）



よくわかる心理統計
山田剛史・村井潤一郎
ミネルヴァ書房

2年生の「心理統計学概論」で使った教科書です。この授業では、R言語という統計解析向けのプログラミング言語を扱うのですが、Excelの表計算をさらに複雑にした感じで、かなり難しいんです。この本では、それができる限りわかりやすく説明されていて参考になりました。（千歩）